２００９年度（平成２１年度）第３回福山市入札監視委員会会議概要

１　会議名

２００９年度（平成２１年度）第３回福山市入札監視委員会

２　開催日時・場所

２００９年（平成２１年）１１月１９日（木）午後５時～午後６時３０分

福山市役所議会棟３階　第５委員会室

３　出席委員

中山委員，相原委員，西原委員，坂本委員

４　出席した職員

建設局長，建設管理部長，土木部長，農林土木部長，都市部長，建築部長，下水道部長，水道局業務部長，水道局工務部長，建設政策課長，契約課長，技術検査課長，農林整備課長，営繕課長，水道局経理課長

５　会議の概要

（１）建設局長挨拶

公共工事の入札・契約手続については，透明性や競争性の向上，公平性・公正性の確保，さらには品質確保の観点から，国をはじめ全国の各自治体が，最重要課題として位置づけ，その改革に取組んでいる。本市においても，入札・契約手続の改善に取組んでいるが，まだ多くの課題があると考えている。今後においても，この委員会の意見を踏まえる中で，より一層の改善に取組んでいきたい。

（２）委員等の紹介

委員及び建設局長以下関係局部課長の紹介

（３）委員長の互選について

委員の互選により，中山委員を委員長に選出した。

（４）委員長職務代理者の指名について

委員長が，相原委員を委員長職務代理者に指名した。

（５）委員会の運営について

２００３年（平成１５年）７月１日の「福山市入札監視委員会設置要綱」の制定以来，今日まで２６回の審議を行い，入札制度については，入札に付するすべての建設工事について，原則一般競争入札にするなど，より一層の透明性･公正性の確保が図れたものとなっている。

このような状況の中で，この委員会をより機能させるため，３ヶ月に１回開催してきた委員会の回数を見直し，入札制度改善や審議の必要な案件については，随時委員会を開催するようにしてはどうかとの意見が出された。

（６）２００９年度（平成２１年度）の契約状況等について

契約課長から次のとおり説明を行った。

本年度１０月末までの福山市発注分の入札件数は５５３件で，その落札率は，８２．５６％，水道局発注分は１３４件で，８３．４５％であった。福山市発注分について，２００５年度と比較すると，４．９ポイント低下しているが，２００６年度と比較すると，２．０ポイント，２００７年度と比較すると，７．８ポイント上昇しており，水道局発注分もほぼ同様の状況となっている。２００８年度と比較すると，福山市発注分は３．２ポイント上昇しているが，水道局発注分は１．９ポイント低下している。福山市発注分の落札率が上昇した要因としては，２００７年度に低入札価格調査制度を廃止し，最低制限価格制度に一元化し，２００８年度に，企業の健全経営に配慮する観点から，最低制限価格に係る経費分について算定基準を見直し，さらには，今年度において，昨年来の経済危機に対応するため，最低制限価格の更なる見直しを行ったことによるものと考えている。

（７）抽出案件の審議

ア　福山市立伊勢丘小学校屋内運動場改修工事

イ　（仮称）本浦・浦友地区浄化センター整備工事（土木工事）

ア及びイについて，契約担当課長及び当該工事担当課長が，それぞれの工事について説明を行った。

（８）入札及び契約手続の運用状況についての報告

指名除外措置運用状況について，契約課長から取りまとめて報告を行った。

（９）次回委員会の開催日時について

２０１０年（平成２２年）１月を目途に事務局で調整する。

(10) 次回委員会で審議の対象とする工事の抽出方法について

次回の事案の抽出は，本年１０月から１２月分を対象とし，西原委員が担当する。

６　発言の趣旨

主な質疑応答は，次のとおりである。

抽出案件の審議

ア　福山市立伊勢丘小学校屋内運動場改修工事について

Ｑ１　小中学校の屋内運動場の改修工事が７件あるが，この案件だけ失格者が多いのが気になる。他の工事と違う特殊な要因があったのか。

Ａ１　工事内容に特殊なものはないが，この工事は同様の他の案件の中で予定価格が最も高く，入札参加者も一番多い。参加した業者がぜひ落札したいとの思いからこのような結果になったと考えている。

Ｑ２　全社が失格したらこの案件はどうなるのか。

Ａ２　設計内容を確認後，再度一般競争入札の広告をすることとなる。

Ｑ３　最近の入札における失格者数は，どのくらいの割合となっているのか。

Ａ３　土木工事においては，昨年度の失格者が，全入札者の約３０％弱だったものが，今年度においては約４５％となっている。

イ　（仮称）本浦・浦友地区浄化センター整備工事（土木工事）について

Ｑ４　この案件を総合評価方式にしたのはなぜか。応札者が他の案件と比べて少ないのは，総合評価方式にしたことによるものか。

Ａ４　本工事は，下水道の水処理用の水槽コンクリートにおいて，漏水により地下水を汚染することがないように，高い耐久性を求めた内容である。施工にあたっては，コンクリートのひび割れをいかに抑制するかという点の技術的所見を求めることとし，総合評価方式で行った。工事場所が離島であり，資材のフェリー運搬等の特殊な要因があるため，入札者が少なかったものと考えている。

Ｑ５　この業者が落札した大きな要因は何か。

Ａ５　施工計画において，優れた工夫が見られ，また，工事成績や企業の社会貢献度など，価格以外の点数が最も高かったため，落札者となった。

Ｑ６　総合評価方式は，企業努力を促す面で有効であると考えるが，一方で同じ業者ばかり落札することにもなり，企業育成を妨げることになりかねないと考える。今年度においては何件行ったのか。

Ａ６　１０月末現在で１４件を試行した。今後も試行を拡大していく予定であるが，総合評価方式で，一部業者に偏るという課題があることは認識しており，評価内容等については引き続き検討していきたい。

Ｑ７　評価項目の周知は行っているか。

Ａ７　入札公告で周知を行っている。

○　企業の特徴を生かすことができ，より多くの業者が参加できるような評価方法を考えてほしい。